

信濃美術館の基本設計にかかる 「県民リレー・ワークショップ」(障がいがある方等)の意見概要

日 時：平成 29 年 9 月 12 日 (火) 午前 10 時から 12 時 10 分

場 所：長野市障害者福祉センター 体育館 (大会議室)

出席者：(株)プランツアソシエイツ 代表取締役 宮崎浩氏、副所長 吉満聡氏

松本透信濃美術館整備担当参与、青木県民文化部長、日向信濃美術館整備
室長、塩入施設課企画幹

参加者：33 名

概 要

[主な意見等] (アンケートへの回答含む。)

【設計関連】

<全体>

- 城山公園やその周辺と一体となった誰にでもやさしい美術館にしてほしい。
- 善光寺だけにこだわらず、城山公園全体の中の美術館と捉えてほしい。
- 子どもたちが親しみやすい美術館になるとよい。美術館に入るところからワクワクするようなアプローチになるとよい。
- エントランスホールに無料スペースを設け、カフェ等に自由に入れるようにしてほしい。
- 発達障がい児がクールダウンする場所がほしい。美術館に入りたいが、急に広い場所に入ると興奮して走り回ってしまう。低いパーテーションでもよい。
- 障がい者は疲れるので休憩スペースをたくさん設けてほしい。
- ワークショップルームや多目的ホールは、要約筆記などを映すスクリーン付近だけ照明を消せるなど、細かく照明のオンオフができるようにしてほしい。
- 展望広場に一部屋根がある部分があると日除けにもなり、人が集う場所になる。
- 建物内の壁や柱は、ぶつかっても怪我をしないようになるべく角をつくらないでほしい。
- 喫煙場所を設けるようであれば、すばらしいところにいることが感じられる場所に設置してほしい。
- 自分の障がいをクリアするために設計の要望を出しても、設計者が種別の違う全ての障がい者に対応することは不可能である。障がい者同士が理解し合い、譲り

合いながら何とか満足できる状況を模索することが重要である。

- 障がいがある方への課題をすべてクリアすることは難しい。トライ&エラーを障がい者と設計者が一緒に繰り返せることは支援者の立場としてはありがたいこと。今後もこのような場をつくれるとよい。

<身体障がい者>

- 身体障がい者が一人で移動できるように配慮してほしい。（駐車場、スロープ、エレベーター、トイレなど）
- エントランスに屋根があると車イスの人を車から降ろすときに濡れずにすむ。
- 屋外動線には悪天候でも利用しやすいように屋根を付けてほしい。屋根が難しければ屋根に代わる人的サービスがあるとよい。
- 美術館の自動ドアはタッチ式だと届かない場合や手の力が弱くて押せない場合がある。人感センサーにしてほしい。
- 長時間車イスに乗っていると疲れるので、横になって体を伸ばせる場所があるとうれしい。
- 展望広場から善光寺に車イスやベビーカーで移動できる動線を考えてほしい。
- 足が不自由なので展示を観ていると途中で疲れてしまう。平面計画で工夫ができないか。
- 展示室に電源があると人工呼吸器装着児も安心して楽しめる。
- レストランには抱っこで食べさせる場合などのために小上がりがあるとよい。また、車イス席には車イスの肘置きと干渉しない高さの机があるとよい。
- 駐車場からレストランまで行ってみたら閉まっていた残念だったことがある。駐車場からレストランの様子があるとよい。
- てんかん発作時の座薬挿入や定時の注射などに使えるベッドがあると助かる。

(トイレ)

- 多目的トイレは、障がい者だけではなく、高齢者や乳飲み子のいる母親も使うので、多目的トイレの数を増やしてほしい。健常者用のトイレの個室を一つ減らしてでも車イスが入れる広さやベビーベッドが備え付けられる場所をつくってほしい。
- 多目的トイレを使うと障がい者に迷惑がかかるため、通常のトイレにベビーカーと一緒に入れる個室があるとよい。

- 車イス利用者のトイレは、可能であれば男女別にしてほしい。
- 障がい者はトイレに時間がかかる。人感センサーの照明がすぐに消えないようにしてほしい。
- 多目的トイレの場所は、いたずら目的で使われることを防ぐために受付の近くなど人目があるところに設置してほしい。
- 幼児用の便座があるとよい。固定するベルトがあると安心。
- おむつ交換時のベッドは成人用も必要。大きなものを設置してほしい。
- 多目的トイレにはおむつ用のごみ箱を置いてほしい。また、一時的に立てる子どもの下着を交換するときに靴下で立てる着替え台がほしい。
- 多目的トイレに人工呼吸器などの電源がとれるコンセントがほしい。
- 多目的トイレに荷物置き場やフックがほしい。

(エレベーター)

- ボタンの位置が壁面より窪んでいると周りの壁に邪魔されて押せない。音声ガイド端末のボタンも押しづらいものがあるので注意してほしい。
- ストレッチャーが入る広さにしてほしい。
- 最低でも車イスが一度に2台入れる広さにしてほしい。
- エレベーターのほかにスロープもあれば災害時に安心。また、触って楽しめるものや天井に映像を流すなど、そこだけで楽しめる工夫があるとうれしい。
- 停電時にはエレベーターが使えない。文明に頼り過ぎるのもよくない。

(駐車場)

- 駐車場は信州パーキング・パーミット（障がい者等用駐車場利用証）制度※を導入してほしい。

※公共施設などに設置されている障がい者等用駐車区画を適正に利用していただくため、障がいのある方や高齢の方、妊産婦の方など歩行が困難な方に、県内共通の「利用証」を県が交付する制度

- 車イスで利用できる広い駐車場がほしい。
- 障がい者など配慮が必要な人向けの駐車場には屋根を付けてほしい。

<視覚障がい者>

- 弱視の人は、階段を下りるときに段差が同じに見えてしまう。色のコントラスト

で段差を見やすくする工夫をしてほしい。

- トイレの表示が弱視の人にも分かりやすい色や大きさにしてほしい。男性用、女性用が分かりやすいように工夫してほしい。

<聴覚障がい者>

- ヒアリングループ補聴援助システム※を当初から考慮して設計してほしい。
※聴覚障がい者用の補聴器を補助する放送設備
- 聴覚障がい者にとっては、視覚的に分かりやすい施設がありがたい。例えば、松本市美術館はエントランスで3階まで見渡すことができる。関西国際空港のエレベーターは透明で、どこの階に行くのか外から見えて分かりやすい。
- 聴覚障がい者は避難放送が聞こえない。避難誘導は電光掲示板の活用を検討してほしい。

<精神障がい者>

- 入口と室内が曖昧なほうが入りやすい。作品を観る以外にも、無料な場所があって、ふらっと行って休める空間があるとよい。

【運営関連】

<全体>

- 美術館は生きる質を高める場所であってほしい。
- 障がい者をシャットアウトしない美術館にしてほしい。
- 美術館のバリアフリー化は、障がい者の鑑賞と作品制作への対応を含めて広い視野で考えてほしい。
- 障がいがある子どもが美術を学べる場にしてほしい。
- 障がいの重い子どもが楽しめるワークショップを開催してほしい。
- 子どもたちが体験や創作の楽しさを実感することで、また美術館に来るきっかけになる。ワークショップの充実をお願いしたい。
- 無料スペースでは子どもたちがワークショップで作った作品などが展示できるとよい。
- 障がい者向けの企画展を開催してほしい。
- 展示室は常設でスヌーズレン※のような音や光、体感できる展示をしてほしい。

※重度知的障がい者を魅了する感覚刺激空間を用いて最適な余暇やリラクゼーション活動を提供する実践。また、そのプロセスを通して構築されてきた理念。

- 発達障がい児は展示全体を観ることが難しい場合があるので、小さなレプリカがあるとよい。
- 障がい者も美術活動ができる美術館にしてほしい。
- 自分の作品が売れる「芸術作品市場」のようなイベントを開き、将来の芸術家を育ててほしい。障がいがある人もない人も出店できる場があったらよい。
- 「つながる」美術館のコンセプトはハード面だけではなく、運営面にも引き継がなければならない。運営面でも手話通訳や要約筆記の配置など障がい者のことを理解できるスタッフがいてほしい。
- 障がい者向けの展覧会の運営にはボランティアの力が必要である。ボランティアを通して健常者と障がい者が友だちになる。障がい者の美術鑑賞の視野が広がる。
- 作品解説やパンフレットは分りやすく、読みやすいものにしてほしい。
- カフェやレストランは安価でお願いしたい。

<身体障がい者>

- 車イス利用者は大人の立位の目線より低い。車イス利用者の目線に配慮した展示をしてほしい。
- 美術館への直通バスが運行される場合、車イスが利用しやすい低床バスにするようバス会社に働きかけてほしい。
- レストランで形態食やアレルギー食のレトルト商品を販売してほしい。レトルトを温める電子レンジもあるとよい。

<視覚障がい者>

- 設計よりも運営に関心がある。視覚障がい者だけでなく、健常者も触ることができる作品を常設展示してほしい。
- 展示作品をできるだけ触らせてほしい。触ることが難しい作品は学芸員やボランティアの解説があると楽しめる。
- 彫刻作品は触ることで分かることがたくさんある。視覚障がい者が想像したり感動したりできる美術館にしてほしい。
- 屋外彫刻の台座にレプリカを置き、触れると形が分ってよい。
- 視覚障がい者は光が見えない。音の変化で表現できる作品はないか。

- 「OTON GLASS（オトングラス）」を装着して、Wi-Fiでインターネットに接続すると視覚的な文字情報を音声に変換することができる。美術館にこのような技術を組み込むことにより介助者なしで美術作品を鑑賞することができる。
- 絵画にアクリル板を被せて触ると色の濃淡が感じられる技術が開発されている。このような技術も触れる展示として活用できるのではないか。
- 音声による展示案内をやってほしい。
- 点字が得意な人もいるので、点字の資料も用意してほしい。

<聴覚障がい者>

- コミュニケーションが大切。ハード面よりソフト面を重視している。
- 運営面で手話通訳を検討してほしい。

(以上)